

秀逸作品

遠藤由樹子選 秀逸十句

- 1 一人上がれば双六の紙薄き  
海城高等学校 一年 南幸佑
- 3 凧や昭和の理髪店の窓  
岩手県立水沢高等学校 一年 小野寺羽奈
- 6 ビー玉の中心草の穂の見ゆる  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校 一年 福田彩月
- 7 長閑さや賽銭箱の前に立つ  
群馬県立高崎高等学校 二年 武元気
- 11 枯野道はちみつ飴の溶けてゆく  
星野高等学校 三年 磯部美咲
- 14 温室が欠伸のやうに続きけり  
開成高等学校 一年 佐々木啄実
- 16 飢餓の子の大き眼や石榴の実  
長野清泉女学院高等学校 二年 小林蓮
- 19 冬銀河以外に何もない故郷  
高田高等学校 二年 網谷菜桜
- 22 牧場に座りて冬晴を撮りぬ  
愛知県立岡崎東高等学校 二年 鈴木空
- 31 東京を隠す雨なり冷奴  
開成高等学校 一年 荒川力也

岸本尚毅選 秀逸十句

- 6 読み返す生徒心得今日の秋  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校 二年 岡本伊万里
- 7 むつごろうの古き巢穴の白さかな  
群馬県立高崎高等学校 一年 山岸春貴
- 13 土筆生え春の終焉肌湿る  
文教大学付属高等学校 二年 榊原理央
- 14 塵取りにうつすらと水白木槿  
開成高等学校 一年 佐々木啄実
- 15 鯛焼の尾鰭ばらして鳩へ撒く  
海城高等学校 二年 干川裕輝
- 16 海温の上昇和布ざわざわと  
長野清泉女学院高等学校 二年 荒井かな子
- 17 キャラメルを二つ握りて墓参  
星野高等学校 一年 大友結
- 19 荷物みな身を締めつけて蝌蚪生まる  
灘高等学校 三年 松本大輝
- 22 城跡に立つや数多の屋根へ雪  
愛知県立岡崎東高等学校 二年 田外美緒
- 24 待ち合はせ場所に眺むる花火かな  
洛南高等学校 二年 川田美紀

高柳克弘選 秀逸十句

- 6 冬だまた私の知らぬ冬がきた  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校 一年 福田彩月
- 7 キャタピラは遅い九月を踏んでゆく  
群馬県立高崎高等学校 二年 武元気
- 11 子を宿す猫の波打つ腹と寝る  
星野高等学校 三年 野城知里
- 12 春雨や酢飯の味見もそもそと  
青森県立八戸高等学校 二年 大久保美咲
- 14 東京や雨の聖樹に肩触れて  
開成高等学校 一年 佐伯冨人
- 15 プールサイド瘡蓋の膨らんでる  
海城高等学校 一年 東口恰弘
- 16 コロナウイルスうつらぬように袋掛  
長野清泉女学院高等学校 二年 大日向愛良
- 19 謝れば済むこと多し胡瓜揉  
愛媛県立今治西高等学校 三年 八木大和
- 24 何もかもできる気がする蹴かな  
洛南高等学校 一年 山本泰己
- 31 小児科に天使の時計春休  
開成高等学校 一年 荒川力也